

## 平成29年度 学校評価表

【学園の指標】

(1) 自主自立の精神に富み、気品高き自治の学園
(2) 誠実、勤勉にして、社会的秩序を重んずる学園
(3) 職員、師弟、校友相睦み合う、友愛協和の学園

(1)自主的な高校生活【自主自立】	①将来の目標を明確にし、その実現に向けて努力する。 ②出雲高校生としての誇りを持ち、品位ある言動を心がける。 ③心身の健康の保持・増進に努める。
(2)活力に満ちた高校生活【文武両道】	①日々の授業を大切にし、家庭学習の充実をはかる。 ②部活動・生徒会活動・学校行事等に積極的に参加し、心身の成長をはかる。
(3)心のふれあう高校生活【友愛協和】	①気持ちの良い挨拶をこころがけ、豊かな人間関係を築く。 ②友人や周囲の人を思いやる心を培うとともに、互いの存在を認め合う。 ③さまざまな機会をとらえ、教職員や地域の人々とふれあう機会を持つ。

出雲高校 キーワード&スローガン

「自立」「協働」「挑戦」

↓  
さあ これからだ！

島根県立出雲高等学校

評価の指標(肯定的評価値の割合) A:80%以上(満足できる) B:60~79%(もう少し) C:50~59%(改善が望ましい) D:49%以下(改善が必要)

教育目標	目標 (評価項目)	目標達成のための施策	主たる 担当分掌	評価 指標	自己評価						学校関係者評価		
					目標値 [a] % (昨年) —	評価値 [b] % (昨年比) —	達成指数 [b/a] % (昨年) —	平均評点 [総和/4] (昨年) —	評価 (昨年) —	取組状況と課題	改善策		
環境整備	学びやすい環境の構築 働きやすい環境の構築	・教育目標及び重点目標の達成に向けた教育活動が行われている。	管理職 総務 図書文化情報 保健 事務	管理職 総務 図書文化情報 保健 事務	80 —	98.2 98.3	123% 123%	3.5 3.4	A A	・重点目標達成のために、全教職員が連携して取り組んだ。自己評価における肯定的評価の比(%)、平均評点とともに全体的には高い評価結果となった。	・「出雲高校のすがた」を用いて、全教職員のペクトルを整え、地域や社会のリーダーを育成する教育活動を充実させる。	A	・生徒の学習活動に関わる評価は全般的に良好であるが、生徒の自己評価は1年生が一番低く、3年生に向けて学年進行で向上している。特に1年生に対して学習活動への意識を毎学期調査することで、その変化の様子を把握し、対応を検討する必要がある。
		・PTA活動やPTAの広報等を通して保護者との連携を図る。			80 —	96.4 96.5	121% 121%	3.4 3.2	A A	・PTA活動については、研修会（講演会）の参加者が少ないなど、広報に課題が残った。	・講演会の日程、講師や内容等についてPTA役員と検討し、広報活動への一層の努力をおして参加者の増加と活発な活動に繋げたい。	A	
		・ホームページにより保護者・地域への広報活動を行う。			80 —	96.4 96.4	121% 121%	3.3 3.4	A A	・学校ホームページについては、昨年度から保護者の利用状況調査を開始した。これにより、日々のホームページ閲覧のデータが得られるようになった。	・ホームページ閲覧データの分析をとおして、どれだけどのようなデータが閲覧されているかを検討し、一層有用なホームページの運用を図りたい。	A	
		・生徒の健全な教養を育成するために適切な資料を整え、利用しやすい図書館運営を行う。			80 —	98.2 100	123% 125%	3.6 3.6	A A	・生徒の図書評価の内、「図書館の利用のしやすさ」に関する一年生の評価が昨年度に引き続きやや低い。これは、一年生のSS基礎の授業が図書館教室で主に実施されており、二年生が図書館でSS検討・SG検索の授業をしているため閲覧等が行いにくくことにあると思われる。	・授業や閲覧作業等の重複の解消はすぐに解決できる問題ではないが、今年度は図書館のパーティションを新たに設けるなどの改善を行った。今後とも図書館のレイアウトの変更などで改善できるか考えたい。	A	
		・学習活動に即応できるICT機器利用の環境を整える。			80 —	87.9 86.2	110% 108%	3.3 3.1	A A	・各教室におけるICT機器の整備が進み、視聴覚機器の活用の機会が増加したことが評価されたと考えている。	・ICT機器の充実がなされ、それに合わせて視聴覚教室などのICT機器の使用方法の明示、教室内の附属機器の整理等を推進したい。	A	
		・校内美化が保てるよう、積極的に清掃活動を行う。			80 —	82.5 88.3	103% 110%	3.0 3.1	A A	・「清掃」や「ゴミ」についての評価は昨年より0.1ポイント下がってしまった。掃除の取り扱いが早くなるように定期的な働きかけをしていく。	・可燃ゴミの処理量は、H27 : 6636Kg→H28 : 8102kg→H29 : 6464kg (4~12月で比較) と減少しているので、良い傾向である。今後も対策に取り組みたい。	A	
		・費用対効果を考えた効率的な予算執行を行う。			80 —	96.6 100	121% 125%	3.4 3.4	A A	・各部・教科への予算要望調査や教育環境の変化を把握し、より高い効果が得られるよう計画的で効率的な予算執行に努めた。	・限られた予算なので、今後も費用対効果や優先順位に留意し適正な予算執行に努めたい。	A	
		・生徒が主体的に取り組めるような生徒会運営を行う。			80 —	98.2 100	123% 125%	3.4 3.5	A A	・昨年度は同程度の取組を維持することで、ほぼ計画通り実施できた。昨年度に継ぎ、非常に高い評価を得た。	・生徒会のリーダー性の育成とともに、より多くの生徒が主体的に生徒会行事に参加するように指導を続ける。	A	
地域・社会のリーダーとして貢献できる人材の育成	自他を尊重する精神の育成 豊かな人間性の育成	・図書館からの情報発信を組織的に行い、生徒の読書活動・資料活用の推進を図る。	生徒部 図書文化情報 人権・同和教育 生徒	生徒部 図書文化情報 人権・同和教育 生徒	80 —	98.1 100	123% 125%	3.5 3.4	A A	・昨年度は同程度の取組を維持することで、ほぼ計画通り実施できた。昨年度に継ぎ、非常に高い評価を得た。	・「図書館ニュース」の発行、HPの内容の充実をさらに進め、引き続き情報提供に努める。またSSH、SGH及び教科の学習活動も引き続き積極的に支援する。	A	・生徒は多忙な中でも部活動や学校行事、様々な生徒間の関わり合いの中で、しっかりと学校生活に向かって活動している。将来的にバランスのとれた社会人に成長してほしいと思う。
		・人権・同和教育に係るホームルーム活動や講演会等の学習をとおして、人権感覚を育成し、自他の人権を尊重しあう意識の醸成を図る。			80 —	89.5 94.5	112% 118%	3.1 3.2	A A	・例年通りの計画に基づいているものの、各クラス・学年ごとの活動が大半を占め、全教職員で取り組む実践が少なかった点が反省点である。	・実践の場の確保を果たすために、次年度に向けて今一度全体計画を見直していきたい。	A	
		・いじめに関するアンケートやアンケートQU等を活用し、いじめを許さない意識を醸成する。			80 —	94.7 94.8	118% 119%	3.3 3.4	A A	・2回のアンケートQ1と4回のいじめに関するアンケートを実施した。集計・検討・指導の対応が昨年以上スピーディに実施できた。	・いじめに関するアンケートについては、年度途中でより一層直接的な質問項目に改める改善を行ったが、次年度に向けてさらに適切かつ即応性に富んだ実施を行いたい。	A	
		・服装検査や街頭指導、集会指導等のあらゆる機会をとらえて、基本的生活習慣の確立にむけた指導を行う。	生徒 生徒・保護者アンケートの結果 教職員自己評価における肯定的評価の割合	生徒	80 —	71.9 81.4	90% 102%	2.8 2.9	B A	・挨拶、服装の状況は全体でみると良好であるが、個々には挨拶ができない生徒や服装が乱れている生徒も見受けられる。例年並みの指導を行っているが、個々の指導がなされていないことが数値の減少の一つの原因ではないかと思われる。	・服装指導、挨拶運動、遅刻防止のための啓発活動など実施に合わせて適宜行えるよう教職員の共通理解を図り、生徒会などとも協力して実施していくよう工夫する。	B	・部活動に係る評価は昨年度と変わっていないが、顧問の教員は所属する生徒への理解を一層深めるよう努め、部員の行動の把握を細やかに行っていただきたい。
		・部顧問会や大会・遠征等の支援を行い部活動の活性化を図るとともに、規律ある活動に向けた指導を徹底する。			80 —	71.4 70.2	89% 88%	2.8 2.8	B B	・校内申し合わせ事項の徹底を図り、規律ある部活動の実施につなげる取り組みに検討の余地があると感じる。	・校内申し合わせ事項の見直しと徹底を図り、規律ある部活動の実施に取り組む。	B	
		・街頭指導や自転車点検等の施策を行うことで、生徒の交通安全指導を徹底する。			80 —	84.5 91.5	106% 114%	3.1 3.1	A A	・肯定的評価の数値は下がっているが、強い否定的評価の数値はあまり変わっていない。特に保護者に対して、学校での指導や取り組みが十分に発信できていないと考える。	・今後とも自転車運転者、歩行者として守るべき法令の理解の徹底を取り組む。また、交通安全に寄与する自覚と責任感を持たせよう指導を継続する。さらに、本校の生徒指導の取り組みを学年連絡などを通して情報発信し保護者との連携を深めていく。	A	
確かな学力の育成	基礎・基本の定着 主体的な学習態度の育成	・各教科と連携して教員の指導力向上やアクティブラーニング等の指導方法の研究を行い、教科指導の充実を図る。	教務 キャリア教育 学年部	教務 キャリア教育 学年部	80 —	91.2 92.9	114% 116%	3.3 3.1	A A	・挨拶、服装の状況は全体でみると良好であるが、個々には挨拶ができない生徒や服装が乱れている生徒も見受けられる。例年並みの指導を行っているが、個々の指導がなされていないことが数値の減少の一つの原因ではないかと思われる。	・服装指導、挨拶運動、遅刻防止のための啓発活動など実施に合わせて適宜行えるよう教職員の共通理解を図り、生徒会などとも協力して実施していくよう工夫する。	A	・部活動に係る評価は昨年度と変わっていないが、顧問の教員は所属する生徒への理解を一層深めるよう努め、部員の行動の把握を細やかに行っていただきたい。
		・土曜補講を行い、自学自習の意識の高揚と積極的な学習参加の姿勢の醸成を図る。			80 —	86.2 87.9	108% 110%	3.2 3.1	A A	・休日の自習教室開放、1・2年土曜補講について取り組んできたが、おおむね肯定的な評価を得ることができた。	・必要性・課題について教科・学年会等で議論し、抜本的に考えていかなければいけないと思われる。意義・内容・方法等いろいろな意見があるので集約し考えていく。	A	
		・3年生の放課後補講を適切に実施し、生徒個々の進路志望の達成に向けた学力向上に役立てる。			80 —	90.6 96.4	113% 121%	3.3 3.4	A A	・ほぼ計画通り実施することができた。校内評価において、高い評価を得ることができた。	・必要性・課題について教科・学年会等で議論し、抜本的に考えていかなければいけないと思われる。が、意見があることで集約し考えていく。	A	
		・3年間を見通した進路指導計画の下、適切な情報提供により、生徒・保護者の進路意識の高揚を図る。			80 —	98.3 94.8	123% 119%	3.5 3.3	A A	・ほぼ計画通り実施することができた。校内評価において、例年以上の高い評価を得ることができた。	・金曜特別講座や朝日講座の受講者数を増やす工夫をしていく。	A	
進路目標の実現	望ましい職業観の育成 能力・適性の開発	・進路希望調査、職業人講話などを行い、キャリア教育に対する意識の高揚を図る。	キャリア教育	キャリア教育	80 —	98.3 89.8	123% 112%	3.5 3.2	A A	・生徒が自分の進路に対して興味・関心を高めるような工夫を一層進めていく。	・生徒の進路保障のために、全校の協力体制の下で、必要な個別指導を実施していく。	A	・キャリア教育部が作成し生徒全員に配布しているGritizm noteは、生徒の自律的なスケジュール管理やポートフォリオの作成・自宅学習の管理などに効果的に利用されていると思う。高校生活をはじめて、自律の意識と習慣づけを学ばせることは大切だと思う。
		・個別添削、小論文指導や面接指導を組織的に行い、進路実現を支援する。			80 —	87.3 94.5	109% 118%	3.2 3.2	A A	・各種研修や課題研究などを通してSSH・SGH事業と科学系人材・グローバル人材育成のための取り組みの充実を図る。	・1年SSH基礎（SSH研究基礎）では、より一層生徒の汎用的能力育成に向けプログラム改善に努めている。2年理数科SSH研究・SGH研究では、外部連携機関と本校指導教員との連携をより一層密にしていく。3年SSH研究・SGH研究では、出雲市及び島根大学との連携をより一層進めている。	A	
		・危機管理マニュアルにより事故発生時に迅速かつ適切に対応できる体制を整える。			80 —	91.2 81.8	114% 102%	3.2 3.1	A A	・事故・悪天候			